



れんげそう

令和7年9月30日
福生第五小学校
学校通信第578号

読書の力

校長 泉田 巧人

2学期も早1か月が過ぎ、令和7年度も折り返しに入りました。気候も少しずつ過ごしやすくなってきています。9月16日(火)・17日(水)に、第5学年が「名栗自然教室」に行ってきました。天候にも恵まれ、子どもたちは、一日目「カレーライス作り」「プラネタリウム」「森のQ太郎ゲーム」「サーチライトハイク」、2日目「ヒノキのバードコール作り」「災害時対応焼きそば作り」の行程を滞りなく実施することができました。今年度は、福生第七小学校と同日の開催で、開校式やサーチライトハイク等の一部の活動と一緒に交流しました。家庭から離れて友達同士で過ごす一泊二日の特別な時間を思い思いに過ごしました。



S&D たまぐー福生中央図書館

9月20日(土)に道徳授業地区公開講座を実施しました。保護者の皆様方には、授業参観をいただきありがとうございました。今後も、家庭・地域と共に子どもたちの道徳性を育てていきたいと思えます。そのためにも学校での子どもたちの様子を見ていただくために、学校を公開する場をつくっていきます。

さて、道徳授業地区公開講座の意見交換会で、福生市教育委員会の石田周教育長から御挨拶をいただきました。その中で、現在福生市の全ての学校で力を入れていることについて話がありました。その一つが読書です。読書は作品や作者との出会いの場となります。知らないことを知る新しい知識、自分と違った価値観、様々な考え方等、たくさんの出会いです。知識、語彙力、考える力、感じる力、想像する力、表す力、共感力等が育つとともに、様々な人の思いを知ることで相手のことを思う思いやりの気持ちも育つなど、豊かな心を育てられます。

名栗自然教室から帰ってきた閉校式の際、子どもたちに「スマートフォンを見なくても楽しかったですか。」という問いに、ほぼ全員が手を挙げました。やることや目的があるとスマートフォンを見なくても楽しめます。やることが明確でないため、なんとなくスマートフォンを見て時間をつぶしていることが多いのではないのでしょうか。読書は、スマートフォンのように流れてくる映像情報を受動的に見るのではなく、読むことを通して自分で考えることにつながります。秋は「読書の秋」ともいいます。いつもスマートフォンを見ている時間を30分でもよいので、家族全体で読書の時間にして、秋の夜長を過ごしてみるのも一つではないのでしょうか。「本を読みなさい。」ではなく、「一緒に本を読もうよ。」と子どもを誘い一緒に読書をしたり、お互いに読んだ本について語り合ったりすることにより、子どもたちの学びは広がり親子の会話も増えます。

福生市には、福生市立中央図書館やふっさ電子図書館等があり、読書をするには良い環境が整っていますので、たくさん活用していただけると幸いです。学校においても、10月20日(月)から読書旬間が始まります、読書の推進に御協力をお願いいたします。